

記者懇談会の記録

日 時	令和 6 年 3 月 21 日（木） 15：30～16：00
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-2・3-3
記者数	9 人

1 健康ポイントアプリの導入について

（市長）

健康ポイントは、楽しみながら健康づくりへの習慣と関心を高め、健康的な生活習慣の定着を推進することを目的に、平成 26 年 6 月から開始した事業です。健診の受診や健康イベントへの参加などによってポイントを貯め、100 ポイント貯まると 1,000 円分の商品券と交換でき、多くの市民の皆さまにご参加いただいているところです。

開始から 9 年が経ちました。多くの町内会、老人クラブ、サークルなどの団体が、健康ポイントの登録団体として活動し、市民のセルフヘルスケアの推進が図られ、また、行動変容にも繋がっていることから、これまで要望が多かった個人で取り組むウォーキングなどについてポイントを付与できるよう、健康ポイントアプリを導入し、3 月 27 日から運用を開始する予定です。

ポイント付与ですが、ウォーキングでは、1 日あたり 3,000～5,000 歩未満で 1 ポイント、5,000 歩～8,000 歩未満で 2 ポイント、8,000 歩～10,000 歩未満で 3 ポイント、10,000 歩以上で 4 ポイントとなるほか、健診や人間ドックの受診で 100 ポイント、市主催の関連イベントや献血への参加で 20 ポイントとなり、1,000 ポイントで 1,000 円分の商品券と交換できます。

ウォーキングやジョギングは、健康づくりの中でも手軽に取り組めることから、このアプリをきっかけに、より多くの方、特に若い世代の方が健康づくりに取り組み、市民のセルフヘルスケアが進むことを期待しているところです。

さらに新たな取り組みとして、令和 6 年度中にはこのアプリを活用して、ボランティアポイントの付与も検討しているところです。

なお、現在の紙の健康ポイントカードの運用については、令和 8 年 3 月末をめどに終了して、カードから商品券への交換は令和 8 年 9 月までを予定しています。

アプリの導入方法などについての詳細は、チラシを作成し各所に配布するほか、市のホームページや広報いわみざわ 5 月号などでお知らせする予定です。

<質疑応答>

（北海道新聞）

これまで紙で貯めていたものもアプリの方に移行できるということですね。

（市長）

移行もできます。

(プレス空知)

専用のアプリに登録をして歩いた歩数で、となると、例えばスマートフォンで歩数などを管理してくれるアプリ機能があるのですが、それは連動させることは可能ですか。

(市長)

それは連動しています。

(プレス空知)

ポイントの貯め方ですが、これは1日当たりのということですから、翌日すぐにでも換算されるのですか。1日当たり3,000歩から4,999歩で1ポイント、などとなっていますが、毎日、今日歩いたら明日付与されるのでしょうか。

(健康推進課長)

今日は今日で、1日ごとに付与されます。

(プレス空知)

その日のうちにもう付与されて、ということなんですね。毎日1万歩歩けば、30日だったら30日×4で120ポイントということ。

(市長)

はい。

(プレス空知)

若者のセルフヘルスケアをターゲットにしているということですから、市長の思いとして、主にどのぐらいの年代、若者といっても幅があると思うのですが、特にどのあたりの年代に使ってもらえればという思いはありますか。

(市長)

今までの紙のポイントは、やはりどうしても中年から高齢者の方の登録が多かったのですが、若い方でもスマートフォンでアプリを活用することによって、健康づくりに参加できる。このアプリの対象は18歳以上の市民の方ということにしています。

(プレス空知)

やはり18歳から30代ぐらいまでの、というイメージでいいのでしょうか。一般的な若者という言葉で言うと。

(市長)

そうですね。アプリなので、特に若い方が利用しやすい形になっていますから、特にこの年齢層を狙って、というよりは、若い世代ということ。世代に関わらず健康づくり、セルフヘルスケアに取り組んでいただきたいということになります。

(プレス空知)

中高年特にシニアの方、シニアもミドルシニア以上の方になると、なかなかアプリケーションをどう使っているのかわからなかったり、そうなれば紙ベースで続けてもらえないのか、ということがあったりするのかなと思うのですが、令和8年の8月で紙ベースは一旦終了ということ。

すが、その声がもし上がってきたとか、問い合わせがあった場合には、どのように対応されていくのかを教えていただければ。

(市長)

シニア世代の方もスマートフォンの所有率がかなり上がってきています。市役所の手続き関係でも、例えば給付金の申請など、高齢者の方でもインターネットでの申請がかなり増えてきていますので、そういった意味ではスマートフォンの使い方の講習などもしていますが、かなりベースができてきたという認識もあります。ただし、紙ベースでのポイントの交換、あるいは利用についても、一定の余裕を持って、アプリの方に移行というふうに考えています。

(プレス空知)

個別に何か問い合わせがあれば、原課で対応していくようなことでしょうか。

(市長)

それは丁寧に説明させていただきます。

(NHK)

1,000 ポイントで商品券 1,000 円分ということですが、これは何回も交換できるものなのでしょうか。

(市長)

1,000 ポイントごとの交換になりますので、仮に例えば 2,000 ポイント貯まるとしたら 1,000 ポイントごとに交換するという手続きが必要になりますけれども、複数回交換はもちろんできます。

(NHK)

上限も特になしということ。

(市長)

上限もないです。

(NHK)

この商品券は、岩見沢市内で使える商品券でしょうか。

(市長)

これは一般的な商品券で、岩見沢市以外でも使える商品券を今のところ想定しています。

2 MAYA MAXX (マヤ マックス) さんがデザインした婚姻届と出生届の配布について

(市長)

栗沢町美流渡在住の MAYA MAXX さん、数々の絵本も制作している著名な画家であります、その MAYA MAXX さんがデザインをした、岩見沢市オリジナルの婚姻届と出生届を作成しました。

ちょうどお手元に見本コピーをお配りしていますが、以前MAYAさんにお会いした時に、MAYAさんのふるさと、今治市なのですが、そこで配布しているMAYAさんの絵が描かれた婚姻届などを見せていただきました。ぜひ、岩見沢市でも取り組むことができないかとお話しをして、今回、実現することができたということになります。

全面的にMAYAさんがデザインを手掛けてくださって、用紙を開くと花やハートがにぎやかに配置されて、幸せな感じを表現したという言葉にあるとおりの届出書類になります。

また、お手元には記念となる控えが残るようになっていきます。具体的には、複写式の用紙に記入すると、最初には記入例が付いていますが、1枚目が提出用になります。最後のページが控えといえますか、手持ち用でお手元に残せるような仕様になっていて、そこには例えば記念写真を貼ることができるスペースなどを設けています。

結婚、あるいは出産という、人生の特別な出来事を、MAYAさんのデザインと一緒に、大切な思い出として残していただけるよう、配布を開始します。

<質疑応答>

(プレス空知)

婚姻届、出生届ですが、これで様式を統一するということでしょうか。いわゆるベーシックな、無地のタイプと選べるのでしょうか。

(市長)

無地のものも置いてあります。特に出生届については、配布するのは保健センターと市立総合病院です。ちょうど母子健康手帳ですとか、そういうご相談に来たときにも、お手元に渡るようになっていきます。

それから婚姻届については、本庁のサービスセンターの市民係、北村・栗沢の両支所、それから幌向・朝日・美流渡・有明交流プラザの各サービスセンターで配布します。ご希望の方には、窓口でお申し出をしていただくことにしています。

4月1日からの配布開始の予定ですが、事前にという方があればご相談をいただきたいと思っています。ベーシックなものどセレクトできるということになります。

(プレス空知)

出生届ですが、今までは特に図柄はなかったものにこれを入れたということになりますか。婚姻届はおそらく今回が初めてなのかなと思うのですが。

(市長)

出生届も初めてです。今までは出生届も婚姻届も、岩見沢市の届出書類は標準様式で行っていましたが、特に人生の節目となる出生と婚姻に関しては、MAYA MAXXさんの届出書類を活用させていただきたいということになります。

(北海道新聞)

かなりぱっと見てかわいらしくて、目に留まるようなデザインなんですけれども、岩見沢にご縁のある方がデザインされたオリジナルの婚姻届、出生届ということで、改めてそのどういうふう
に活用してほしいとか、いろいろ人口減とかがある中で、何か活躍が期待できるところ、ぜひ
お答えいただきたいのですが、

(市長)

やはりそれぞれ人生の大きな節目になりますので、大切な記憶として、記録としても残してい
ただけるそういったことを願っている次第です。ですから、本当にいいデザインだと僕は思っ
ているんですが、そこに写真を貼ったり、あるいは出生届だったら子供さんの足形を押ししたりし
てもいいのかも知れませんが、いろいろなご活用方法があると思いますが、ぜひ楽しみにしてご活
用いただきたいなと思っています。

3 岩見沢緑陵高校情報コミュニケーション科がグローバル越境・探求プログラムにて最優秀賞を受賞

(市長)

市立高校である、緑陵高等学校の情報コミュニケーション科の話題になります。先日、3月14
日に開催された研究会で、最優秀賞を受賞したというものです。

配布資料にもありますとおり、シリコンバレーに本社があつて、通信関連システムの世界的企
業であります「シスコシステムズ合同会社」と岩見沢市は、2018年度より地域のスマート化に関
する連携協定を締結しているところですが、その連携プロジェクトの一つとして、デジタルを使
って、国内外の高校生同士がコミュニケーションしながら学びあう「デジタルスクールネットワ
ーク」という取り組みを進めてきています。

今年度は、産業能率大学を講師とした「グローバル越境・探求プログラム」がカリキュラムと
して設定され、緑陵高校情報コミュニケーション科の1年生が参加をして、学んできました。そ
こで、3月14日に参加学校毎にまとめた提言に関する発表会が行われて、見事、最優秀賞を受賞
したところです。

緑陵高校が評価いただいたポイントは「地域課題から解決に向けたサービス構築までをストー
リー化してプレゼンテーションしたこと」「サービスについても構造分析が行われ、より具体的な
サービスのスキームを作ろうとしたこと」になります。

これからの社会を担う世代が、そのように評価されたこと、地域としても大変嬉しく、心強く
感じているところです。今回の受賞を契機に、受賞された学生の皆さんにはさらにチャレンジし
て欲しいと思いますし、緑陵高校としても、今後も大学や企業と連携するプログラムを導入する
など、未来人材を育成する現場としての環境づくりを進めていきたいと考えています。

<質疑応答>

(プレス空知)

1年生が参加して発表して受賞したということですが、1年生1人ですかグループですか。

(市長)

2チーム、男性3名の1チームと、女性3名の1チーム、2チームが出場して、男子チームが受賞したということになります。

(プレス空知)

女性グループの方は特に評価というのは、何か賞をいただくということではなかったのでしょうか。

(市長)

そうですね。最優秀賞を男子チームがいただいたというところになります。

(情報政策部長)

評価する先生方からは、コメントとして女性チームもすごく良かったそうです。今回、賞が最優秀1つしかなくて、他のいろいろな高校、宮崎などもあるなかで、残念ながら賞はなかったのですが、評価は高かったと聞いています。

(プレス空知)

これは何グループ、全国からということでしょうけれども、どのぐらいの数が参加した中の、最優秀だったのですか。

(市長)

最終プレゼンは確か8校というふうに聞いています。1校1グループのところもあるでしょうが、8校ということしか聞いていません。詳細は緑陵高校にご確認いただければと思います。

4 その他

<質疑応答>

(北海道新聞)

市長選挙の関係でご質問します。巷ではもう立候補に向けた動きも出ていますが、市長ご自身、次期に向けてどのようにお考えか、お話を聞かせ願えればと思います。

(市長)

今ちょうど年度末で、これから新年度を迎えるに当たって、やらなくてはならない課題もたくさんありますので、それにきちんと全力を傾けながら、しかるべき時期にしかるべき判断をしたいなというふうに思っています。

(北海道新聞)

しかるべき時期というのはいつくらいになる、とかは。

(市長)

まだしかるべき時期、という段階です。めどが立っているわけではありません。

(北海道新聞)

今、やらなくてはいけないことがたくさんあるというお話がありましたが、喫緊でご自身の中で取り組まなければいけない課題というのは、どのようにお考えですか。

(市長)

やはり新病院の建設問題については、いろいろ状況が変わってきておりますので、どういうふうに最適化を図っていくか、最善の方法をとっていくか、そのことについては職員とも十二分にいろいろとディスカッションしていますが、できるだけ早く方針を固めて次のステップに向けて進んでいきたいなというふうに思っています。

(北海道新聞)

一番大きなのはやはり病院の関係になりますか。規模とか事業費の関係とかも見直しの対象になってくるという。

(市長)

そうですね。コロナ禍になって、患者動向がコロナ禍前まで全然戻っていなくて、そういう状況の中で、市立病院も労災病院もやはり経営状況はかなり厳しくなってきているので、そういった状況を踏まえて。

経営統合自体は、開院を目指している10年の春に、という方針でいたのですが、それまでにやはり医療資源を集約して、一定の医療サービスを維持しながら、新病院の建設に向けて事業を進めていきたいというふうに考えています。その中で患者動向が戻ってきていけませんので、3月の議会でもお答えさせていただいていますが、規模ですとかは見直していく、実施設計の中でできるだけ早い時期に、そういう方向性をお示ししたいということで考えています。

(NHK)

今の質問に関連しまして、しかるべき時にしかるべき判断ということですがけれども、現時点では、その立候補の表明はまだ、ということよろしいですか。

(市長)

しかるべき時にしかるべきことを言います。

(NHK)

ということで、今、現段階ではまだ明らかにされてないという認識ですね。

(市長)

そうですね。はい。

(プレス空知)

今の関連です。いわゆる後援会、支援者の方との調整というか、もう十分、入念に行ってい

っしゃるのでしょうか。

(市長)

話題に出ることはありますけれども、まず当面する課題に、今全力で取り組ませてほしいということは私から申し上げます。

(プレス空知)

早く表明した方がいいのではということ、せつつきがあるなどしませんか。早く表明した方がいいと、後援会の役員の方たちから推されるということは。

(市長)

いろいろなお考えのご意見を伺ってはいます。

(プレス空知)

そういうのを踏まえて、やはりしかるべき時期にしかるべきということでしょうか。わかりました。

(北海道新聞)

バスの関係で、月形線、先日の議会の中でもお話が出ていましたが、岩見沢市としては、これからスケジュール的な面も含めて、今後1年というところだと思うのですが、どのような受け止めでどう対応をしていくのかというようなお話はありますか。

(市長)

バス路線が、中央バスの運行がなくなりますので、今、月形町と連携をしてそれに代わる公共の、交通ルートの確保に向けていろいろ協議をしているという状況になります。

(北海道新聞)

基本的には今使っている住民がそのまま使えるようにという前提に立っているということよろしいでしょうか。

(市長)

そうですね。

(北海道新聞)

まだ時期的なものとか具体的なところは。

(市長)

まだ調整中ですね。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)